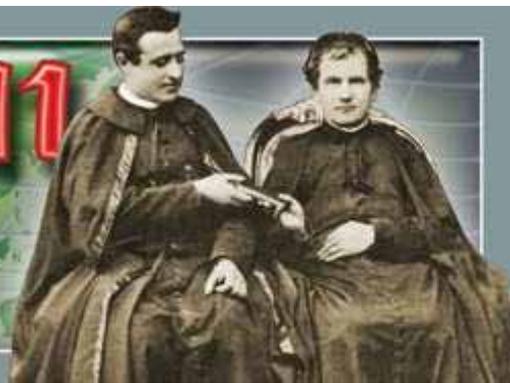


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.32 - 2011年8月



親愛なるサレジオの 宣教師、 サレジオ・ミッションの 友人の皆さん!

8月16日から21日にかけて、サレジオ青少年運動の7千人の若者が、マドリッドのアトーチャのサレジオ高校に集まります。彼らは第26回世界青年の日大会に参加する200万人の若者たちと一緒にです。この大会は必ずや、多くの若者の信仰

を強め、イエスとの出会いを育む機会となるでしょう。信仰は分かち合われるとき、成長すると私たちは知っています! また私たちは、主の呼びかけが届くために、召命の物語を分かち合うことによって神からの光を与えられることが必要だと考えます。次の簡単な質問を用い、皆さんのサレジオの召命、サレジオの宣教師としての召命を若者と分かち合うよう勧めます!

勇気を出して分かち合ってください!

ドン・ボスコとサレジオ会にどのように出会いましたか? どうしてサレジオ会宣教師になったのですか? 養成の体験では、どのようなことが印象に残っていますか(仲間、養成担当者、体験)?

その体験は後に、サレジオ会宣教師となるまで、どのようにあなたを形作りましたか?

サレジオ会宣教師として、これまで自分がどのように変わったと思いますか?

宣教師の召命の歩みのなかで、どのように危機を乗り越えましたか?

サレジオ会員としての歩みのなかで、誰に、またどのような出来事に特別な影響を受けましたか?

サレジオ会員あるいは宣教師になりたいと望む若者に、どのような言葉をかけますか?

霊的な旅、召命の歩みのなかで、主から教わったことは何ですか?

Vedran Clement 宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

信じることの意味を問う若者に向けて 新たな司牧の取り組みが必要です

イエスは、み心に抱く夢のために、純粋な情熱をもって生きられます。御父のみ国を告げ知らせ、打ち立てることです。御父は、すべての人が救われ、豊かないのちを得ることを望んでおられます。イエスは、周りに無関心に、自分のために生きたものではありませんでした。むしろ、限らない熱意をもって人生を生きました。エネルギーに満ちて、ダイナミックに。イエスの言葉から、それは疑いようがありません:「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか!」火というイメージはたいへん表現豊かで、イエスがどのような情熱をもって心のうちに抱く理想を追い求められたかを表しています。

この火は、聖霊です。まず祈りのうちに、私たちを新たにしてください。聖霊の実りは愛です。それは私たちの心の中の平和、周りのものに見いだす喜び、私たちの生き方の力強さのうちに表れます。聖霊によって新たにされ、私たちは豊かに満たされた人になります:忍耐強く、忠実な、熱意のある人です。……イエスに徹底して従おうとする選択は、持っているものすべてをかけて、神を愛し、人々、特に貧しく見捨てられた人々に仕えるために献身することにかかっています。……

私の愛する息子たち、サレジオ会員のためにも祈ります:……皆さんが、霊的導きを求める人々のために、またすでに信仰を實踐し、秘跡を生き教会の中で生きている人々のために、聖霊に照らされた導き手でありますように。召命を探し求めている人々のために、知恵と忍耐に満ちた教え手でありますように。

特に、聖霊が情熱と創意に満ちた働き手をおこしてください。祈ります。もはや今日、教会の扉を叩かなくなったあの多くの若者たちを助けることのできる働き手です。この若者たちは、星を追いかけて旅しながら、エルサレムの律法学者たちよりも、東方の占星術師に会いたいと望む若者たちです。何を信じたいのかと問うよりも、信じることに何の意味があるのかと問う若者たちです。こういったすべての理由から、私たちの司牧の取り組みを根本的に新たにする必要があります!

バスクアーレ・チャーベス神父

2011年1月31日

サレジオ青少年運動へのメッセージより



近日予定の行事

8月
5-6日>南アジアPDMA会議(インド、コルカタ)
7-11日>南アジア研修会(インド、コルカタ)
14-18日>東アジア研修会(タイ、サンフラン)
21-25日>オセアニア研修会(パプアニューギニア、ポートモレスビー)

9月
1-25日>新宣教師オリエンテーション・コース(ローマ、トリノ)
25日>宣教師への十字架の授与(トリノ)
19日-12月8日>宣教師生涯養成コース(ローマ、UPS)

信

ボランティアとしての大きな喜びの体験、 そしてサレジオ会の召命の発見

仰は、いつも私の人生の大切な柱でした。両親のおかげで私はキリスト者として育てられ、子どものころから家族は小教区で積極的に働いていました。長年、侍者を務め、青年会にも入っていました。このようにして、勉強を終えたころには、宣教の体験をしたいという望みが育まれていました。より恵まれていない人たちに奉仕し、自分の人生を分かち合いたいと思ったのです。友人を通して、オーストリアのNGO、Jugend Eine WeltがコーディネートしているDon Bosco Aktion Austriaというサレジオ・ボランティア運動に出会いました。私はすぐに登録しました。

メキシコに派遣されたとき、私は19歳でした。若者たちと働き、新しい体験をしたいという大きな望みを抱いていました。ティファナのマリア・アウジリアドーラ教会とそのオラトリオで働きました。サレジオ会員たちは、私たちボランティアと生活を共にしていました。一緒に祈りと朝食で一日が始まり、日中いっぱい働いた後、ボナノッテで一日を終えました。その日の美しい出来事や、あまり美しくない出来事をお互いに分かち合い、共に祈ることは、毎日の生活の柱でした。さまざまなプロジェクトの中で、私たちはお互いに差し出すことのできるそれぞれの豊かさを体験しました。このようにして互いに助け合ったのです。こうして日々、わが家にいるような気持ちが深まりました。人生のこの時期は、私自身を大きく形作りました。



まる一年、メキシコに滞在したので、さまざまな民族的・宗教的なお祭りに参加することができました。人々の人生、喜び、苦しみを知りました。文化間の出会いは一方通行ではなく、互いを豊かにするものなので、彼らも私から何かを学んでくれたらいいなと思います。たしかに、文化の違いは時に誤解を生じさせました。それぞれが自分は正しいと思いました。しかし、耳を傾け、相手に心を開き、その人のものの見方も理解したいと望むことが必要です。

私の召命の旅路において、ボランティアとしてサレジオ会員たちと過ごした一年は、決定的な時期でした。サレジオ・ボランティア運動を通して私は成長し、決断できるまでになりました。オーストリアに帰ってから、志願期を始め、翌年にはピネロロ(イタリア)で修練期を過ごしました。2009年9月8日、私は生涯を神に奉献し、そして今は、司祭職のために準備しています。私は、この時代にあってドン・ボスコの本物の弟子になり、ドン・ボスコの足跡に従いたいと願っています！

オーストリア出身、ドイツ・ベネディクトボーエルンにてポスト・ノビス
ペーター・リンデラー神学生



サレジオ会の宣教の意向

スペイン-世界青年の日大会(ワールド・ユース・デー)

スペインのすべてのサレジオ会員が聖霊に心を開くことができますように。信仰と召命の旅路において若者たちと共に歩む友として、ますます「キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられたとおりの信仰をしっかりと守る」ために。

スペインの6管区(バルセロナ、ビルバオ、レオン、マドリッド、セビージャ、バレンシア)と1100人の会員は、挑戦と希望に満ちた、重要な歴史的時期を体験しています。世俗化した社会のなかで、召命司牧と福音宣教に新たに取り組みながら、管区再編成の歩みが始まっています。第26回世界青年の日大会がマドリッドで開催されます(8月16-21日)大会はすべてのサレジオ会員にとって、カリスマの再活性化の歩みにおけるすばらしい機会です。



ご意見をお送りください。 segrgia@donboscojp.org